

学校長挨拶

第五中学校のPTAの皆さん、私はこの4月に同じ市内の城下小学校から第五中学校長として着任しました。学校長の畠山正幸と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。中学校で勤務するのは久しぶりで、生徒達と出会うことを楽しみにしてきました。教科は保健体育です。サッカーをずっとやってきました。若いころは自分でプレーもしていましたが、体が動かなくなってきたので、少年チームのコーチをしていました。現在はサッカー観戦やキャンプを楽しんでいます。よろしくお願いします。



本年度は4月当初からコロナウイルス感染症による、欠席や学級閉鎖が続いており、保護者の皆様には大変ご心配をおかけしており、申し訳ありません。せっかく新年度がスタートしたのに、学級の全員がそろう日が少なく、寂しい思いをしています。1日でも早く、全員がそろって落ち着いた学校生活が戻ってくることを願っています。この間の保護者の皆様のコロナウイルス感染症対策へのご理解とご協力、本当にありがとうございます。

さて、本年度は第五中学校に新たに153名の新入生が入学し、全校生徒468名、また、新たに15名の先生方をお迎えし令和4年度がスタートしました。本年度の第五中学校の学校教育目標と重点目標は以下のとおりです。

学校教育目標

人間性豊かで主体的に問題を解決する生徒

本年度の重点目標

- ① 振り返りの時間を確保し、わかった・できたを実感できる授業づくり
- ② 「生活の三重点」を徹底し、自ら築く安心安全な楽しい学校
- ③ 「五中人権宣言」を基に、いじめや差別を見抜き・許さない学級づくり

始業式の時に学校教育目標と「あいさつ」について、生徒に次の話をしました。

五中の学校教育目標は「人間性豊かで主体的に問題を解決する生徒の育成」です。この中にある「主体的」という言葉についてですが、「主体的」という言葉に似ている言葉で「自主的」という言葉があります。この自主的という言葉の意味は「やるべきことが分かっていて、誰かの指示を受ける前に行くこと」です。五中の学校教育目標にある皆さんが目指す「主体的」という意味は「何をするか明確になっていない状況で自分の考えを活かして行動する」という言う意味です。皆さんは主体的に活動することを目指します。この二つの言葉の意味の違いを考えながら今年1年ぜひ主体的に活動する姿を期待しています。

もう一つ、全校の皆さんで力を入れていきたいことがあります。それは「あいさつ」です。五中生はとても挨拶がよくできると聞いてきました。「五中の自慢は？」ときかれたら「あいさつ」と答えることができると思います。さて、校長先生は五中に来たばかりですから、皆さんのあいさつの様子がまだわかりません。きっと、素晴らしい挨拶が響く学校だと思います。今年、あいさつに関して取り組みたいことは、今までの良さを継続しながら、まずはあいさつを五中の自慢にしましょう。そしてさらには「自慢」から、「自信」に変えていきましょう。皆さん一人一人の取り組みや、生徒会、部活動、地域など、いろいろな取り組みをしていきましょう。

さて、今の子どもたちが大人になるころは「子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」「今後10～20年で、約47%の仕事が自動化される」などとよく言われます。また、社会が求める力として「自分の力で問題を解決していくことのできる能力」ということも言われています。まさに、五中の教育目標である「主体的」に行動できる力が求められています。この力は、特別な訓練をしないと付かない力ではありません。日常生活のいろいろな場面で発揮できる力です。たとえば掃除で、「時間が余ったからいつもやっていないところも手を伸ばして掃除をしよう」と考えて行動すること、また、係の仕事で「もっとこうした方が効率的にできる」と考えて行動することで身につく力です。そんなちょっと意識を変えることで、自主的に行動できる五中学生を目指したいと考えています。

もう一つは「あいさつ」です。人が生活していくうえで大切なことは、「つながり」です。生活面でも学習面でも、他とコミュニケーションをとりながら課題を解決していく場面はたくさんあります。その一番の元が「あいさつ」です。五中の生徒は、朝のあいさつがとても気持ちいいです。また、廊下で会うと「こんにちは」とあいさつしてくれます。これもとっても気持ちがよいです。1年生は入学したばかりで、まだあいさつに自信がない様子が見られます。「まずは形から」そして「自慢」に、さらに「自信」になるように生徒会、部活動等と協力して気持ちよくあいさつでつながる五中を目指します。

さて、保護者の皆さんに「中学生の親として」ということで話をさせていただきます。中学生になると心も体も急に成長します。各ご家庭ではどうでしょうか。小学校の頃は学校での出来事などよく話をしたけれど、中学生になると自分のことや学校のことを話さなくなる子も多いと思います。我が家でもそうでした。私には息子が2人いて、今はもう2人とも大学生になり家を出ています。中学生の頃を思い出すと、食事が終わるとすぐに自分の部屋に行き会話の時間は小学校の頃より確実に減っていました。これは決して悪いことではなく、自立への道を頑張って歩いているということなのです。つまり、自分のまわりで起こっている問題を、何とか親に頼らずに自分で解決しようとしているのです。

そうはいっても中学生はまだ自分探しの真っ最中です。自分で何でもできるように振舞いますが、常に今の自分はこれでよいのかという心の葛藤が多い時期です。大人でもなく、子どもでもなく、とても中途半端な時期であり、物事に感じやすく、多感で喜怒哀楽の情が激しい時期です。だからこそ悩みもし、時には親や社会に反発もします。

そんな中学生のもつ特徴を理解し、子どもを信じて温かな目で見守ってほしいと思います。「乳児は肌を離すな、幼児は手を離すな、少年は目を離すな、青年は心を離すな」と言われます。少年から青年になっていくのが中学生です。目を離す時が来ても、心だけは離さないようにしていきましょう。

心を離さないためのキーワードが「あなたが大事」です。先ほども言いましたように、中学生の子どもは聞いても答えなかったり、親に反抗的な態度をとったりしながら成長していきますが、その成長するためのエネルギーが「親から愛されている」という実感です。どんな子どもにも親から見て不足に感じることや、直してあげたいところ、弱点、欠点はあるでしょう。そこに多くの関心を向けることは子どもに劣等感を抱かせます。反抗期の子どもはもっと反抗するようになります。まず親が子どもの良い面を見つけ、そのことに喜びを抱きながら日々の生活を送ることが大切です。子どものありのままを受け止め、歓迎する。そうしてはじめて子どもは親から十分に愛されていると感じます。子どもの欠点を見いだし修正する教育はその後でよいのです。そして、言葉に出すことが一番いいのですが、面と向かっていきなり中学生に「あなたが大事」と言っても「おかあさんどうしたの？」と言われてそうですね。言葉には出さなくても「あなたが大事」というメッセージを日々の生活の中で送ってあげましょう。きっと子どもたちも心のどこかで感じ、何か悩みがあっても乗り越える力につながります。さてみなさん「あなたが大事」メッセージ、

どんなふうに出しますか？ぜひ、工夫してみてください。

皆さんもご存じかと思いますが、五中では本年度から校舎の改築工事が行われます。本来でしたらPTA総会の折に、市から校舎改築の概要について説明会を開く予定でしたが、総会が中止になり説明会ができなくなりました。そこで、5月中に改めて改築についての保護者説明会が計画できればと考えております。

いろいろお話をしましたが、学校、家庭、地域が互いに連携して、それぞれの役割を果たしながら子どもたちの成長を応援したいと思います。保護者の皆様のご理解とお力添えをどうぞよろしくお願ひします。また、本校では年間通して職員研修を行い、体罰等の非違行為防止に努め、学校が子どもにとって安心・安全な場所であるようにしていきます。体罰については、言葉により子ども達の心を気付つけてしまうことも含め、注意を払っていきます。今後お気づきのことがありましたら、どんな些細なことでもいつでも学校にご連絡ください。担任はもちろんですが、校長室、職員室、保健室など、いつでも、どこでも、誰にでも遠慮無くお知らせください。

一年間よろしくお願ひします。

令和4年4月28日

上田市立第五中学校長 畠山正幸